



山中だより

〒959-3907 村上市府屋 655-3
TEL 77-2049 FAX 77-2152
令和5年9月15日発行 No. 6



ブログ随時配信中！HP または上の QR コードから

教育目標 信念とともに 山の如く 優しさとともに 海の如く 勇気をもって たくましく生きる
重点目標 求めて学ぶ 共に生きる 力を尽くす生徒の育成

ふるさとを学び ふるさとを感じ ふるさとを愛する！ ～「学校と地域を結ぶオープンセッション」に参加～

8月8日（火）、村上市教育委員会主催による標記オープンセッションが村上市民ふれあいセンターで開催され、山北中からは2年生の佐藤里桜さん、渡辺夏樹さん、小島七海さんが参加しました。この行事は、「地域の子どもを地域のみんで育てる」ための取組紹介や様々な立場や地域の方との意見交流を通して、学校と地域がつながる「意義」、「価値」を再認識するものです。参加中学校の多くが3年生だったにもかかわらず、3名は前向きにブースでの学校の取組紹介やグループによる意見交換を行いながら、山北中の地域連携に関わる取組をPRしてくれました。

今後も様々な教育活動を通じて、「ふるさとを学び、感じ、愛する生徒の育成」に努めていきます。



優秀賞！木村奈々さん ～令和5年度 わたしの主張「村上市岩船地区大会」～

8月22日（火）、村上市教育情報センターで標記大会が開催され、3年生の木村奈々さんが山北中代表として出場しました。

感性に溢れ新鮮な主張内容かつ熱意と迫力が感じられる姿で聞き手の心に響く素晴らしい発表でした。

結果は見事優秀賞！おめでとうございます。発表文は裏面に掲載しています。



3年生 愛は地球を救う！ ～24時間テレビ チャリティー募金活動参加～

8月27日（日）、3年生の有志が、道の駅笹川流れ（夕日会館）、コメリハード&グリーン山北、セブンイレブン勝木店の3カ所で標記ボランティア活動を行いました。

午後からの活動でしたが、暑い中、大きな声で呼びかけを行ったり、募金をしてくれた方々に丁寧に感謝を伝える姿に感心、感激しました。募金への協力や温かい言葉掛けをいただいた地域・ご家庭の皆様には感謝申し上げます。*集まった総募金額は139,568円との報告がありました。



「さあ、始めました。イッテQ! 今夜は…。」

内村さんの元気な声で始まるイッテQ。私はこの番組の「出川哲朗初めてのおつかい」が大好きです。この企画は、お笑いタレントの出川さんがいろんな国へ行き、番組からのミッションを現地の人と話をして自力でクリアしていくというものです。出川さんは英語があまり得意じゃないけれど、積極的に現地の人とコミュニケーションを取ります。なぜ出川さんは言語の違いがあるのにもかかわらず、一瞬で「人との壁」を越えることができるのでしょうか。出川さんは番組内でこんなことを言っていました。

「英語は知識ではなく、魂だ。」

つまり、気持ちが強ければ英語が拙くても外国の人と会話することができるということです。出川さんは気持ちの強さで「人との壁」を越えているのです。

出川さんを見て私は、自分から話しかけるときに、相手との壁を越えるためには、気持ちが大切なのだなと思いました。相手と話したい、仲良くなりたい、という気持ちを持って接すれば、もし言葉がわからなくても、相手も話を聞いてあげようと思ってくれるはずです。

しかし、気持ちだけではどうにもできない状況もあります。私は修学旅行で関西に行きました。関西には海外からの観光客もたくさんいました。伏見稲荷大社でトイレに行ったときの事です。私がトイレの個室から出ると、目の前に海外から来たと思われる女性が立っていました。彼女は、私に英語で話しかけました。ですが、そのとき私は、急な出来事だったのでびっくりしてしまって、英語を聞き取ることができず、彼女の表情から何か困っているということしかわかりませんでした。私はトイレトペーパーがなくて困っているのかと思い、トイレトペーパーを差し出しました。それを見た彼女は悲しい表情で、「No.」と言って、自分で個室の中を探し始めました。今ならわかります。彼女はこう言っていたのです。

「Do you know where my phone is?」

彼女はスマートフォンをなくして困っていたのです。力になることができず悔しかったです。

この体験を通して、気持ちだけじゃ駄目な時もあるのだと知りました。言語が違う人と話す時は特に、会話が面倒で、話が伝わらないと相手にシャッターを下ろされてしまうかもしれません。伝わらないけど諦めないという気持ちも大切ですが、それと同じくらい話す相手と同じ土俵にのれるくらいの知識が必要なのです。

「人との壁」とは、外国の人とじゃなくてもあります。例えば友達と話すと、相手が自分とは全く違う考えだったら、少し壁を感じませんか。そんなときに大切なことは、

「相手は私じゃない。だから意見が違って当たり前。」

という前提で話すことだと思います。きっとみんながわかっていることですが、いつもそんなことを意識しながらでは大変です。でも、そうしようとするだけで心に余裕ができます。また、相手がそう思う理由を尋ねると新しい発見があるかもしれません。意見が違って、自分の気持ちの持ちよう壁は低くできるのです。

人と話すときに私が大切だと思うことはもう一つあります。それは態度です。態度が悪いと、一瞬で壁ができてしまうでしょう。例えば、暗い表情で怒り口調の人と、笑顔で優しい口調の人がいたら、私が話したいと思うのは後者です。自分の癖などもあると思いますが、少しでも気をつけてみると壁を低くできるでしょう。

高校へ進学すると、周りの環境が変わり、私の性格を理解している人がいないところからスタートします。また、社会に出れば、もっといろんな人と仕事をしなければなりません。そのときに、人との壁を越えるために大切なことは、出川さんのように誰にでも話しかけられる勇気と、修学旅行の長い思い出から、知識を蓄えておくことだと思います。また、それらは、私がこれから身につけていくべきことでもあります。勇気があっても知識がなければ話がわからなかったり、相手に失礼にあたったりするかもしれません。逆に、知識があっても勇気がなければ、せっかく蓄えておいた知識が発揮できません。どちらかを伸ばすのではなく、両方とも身につけるべきことなのです。そのために、今まで話しかけられなかった場面で勇気をもって話しかけてみたり、たくさんの方に興味を持ち、探究したりしていきます。

相手が壁を越えてきてくれるのを待つのではなく、自分から壁を越えていけるような人になれるよう、日々努力していきます。

山北中生の活躍～夏休み中の各種大会結果～ *入賞のみ掲載

○ 第65回小学生中学生全国空手道選手権大会 ベスト16 佐藤 有成

○ 全日本卓球選手権大会(カデットの部)新潟県大会 新発田支部予選会

14歳(中学2年)以下女子シングルス 第3位 佐藤 穂佳

13歳(中学1年)以下男子シングルス 第1位 齋藤 孝成 第3位 岩佐 健瑠

男子ダブルス 第3位 岩佐 大希・菅原 優陽 組